

良質な社会調査データの取得に向けた 最適な調査デザインの開発に関する研究

研究者プロフィール

- ・ 人間科学部 心理行動科学科 准教授 渡辺健太郎
- ・ 専門分野：社会学
- ・ 研究分野：調査方法論
- ・ 所属学会：日本行動計量学会、日本世論調査協会、日本社会学会
- ・ 大阪大学大学院博士後期課程修了。博士（人間科学）。立教大学社会情報教育研究センター助教などを経て現職。論文「督促の文面はSMS調査への協力行動に影響するか」で第13回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。
- ・ その他の刊行物等については[researchmap](https://researchmap.jp/)に掲載

研究内容

- ・ 良質な社会調査データは適切な意思決定を可能にします
- ・ 調査の設計には、唯一の正解があるわけではありません
 - ・ 同じ質問でも、スマホと紙では「印象」が異なる
 - ・ 紙の調査票が一番かという、回答を紙からデータに転記する際のコストを負担できない場合もある
- ・ 私の研究室では、調査データの質とコストという観点から、最適な調査設計についての開発・検討を進めています

調査データの質

- ①知りたいことを測っているか
- ②知りたい人々を反映しているか

最適な方法とは？

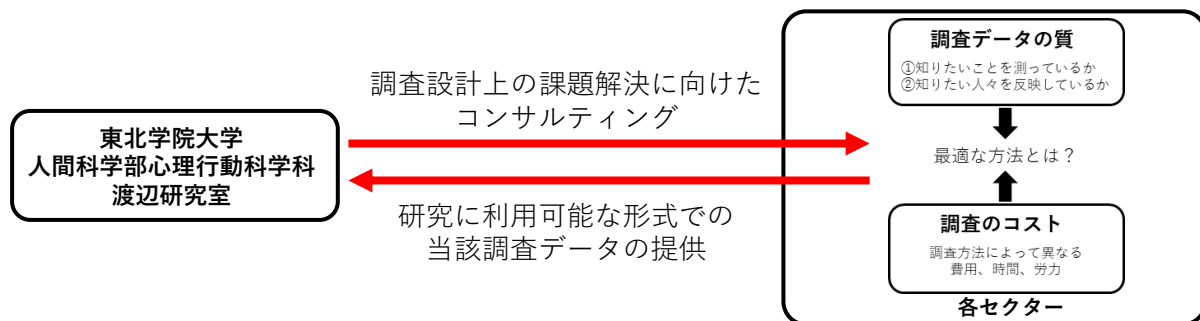
調査のコスト

調査方法によって異なる
費用、時間、労力

関連キーワード

データ、DX、自治体、住民、消費者、ニーズ、アンケート、社会調査

地域・産学官連携のイメージ



研究者への連絡先

産学連携推進センター

Email : scenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

電話 : 022-354-8122